

2011年2月議会 議案と請願に対する討論

2011年3月18日

八木 修

日本共産党大津市会議員団を代表いたしまして、先ほど行われました各委員長報告のうち、

[議案第2号](#) 平成23年度大津市一般会計予算、

[議案第3号](#) 平成23年度大津市国民健康保険事業特別会計予算、

[議案第4号](#) 平成23年度大津市葬儀事業特別会計予算、

[議案第11号](#) 平成23年度大津市堅田駅西口土地区画整理事業特別会計予算、

[議案第12号](#) 平成23年度大津市後期高齢者医療事業特別会計予算、

[議案第26号](#) 大津市職員定数条例の一部を改正する条例の制定について、

[議案第30号](#) 大津市廃棄物の処理及び再利用の促進並びに環境の美化に関する条例の一部を改正する条例の制定について、

[議案第33号](#) 大津市葬祭センター条例の一部を改正する条例の制定について、

[議案第52号](#) 平成22年度大津市堅田駅西口土地区画整理事業特別会計補正予算（第2号）、

[議案第53号](#) 平成22年度大津市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）、

及び

[請願第2号](#) 家庭系一般ごみの有料化を中止し、ごみ減量対策の充実を求めることについて、

[請願第3号](#) 日本政府にイラク戦争の検証を求める大津市議会意見書の採択を求めることについて、

以上、議案10件、請願2件についての反対討論を行います。

まず、議案第2号 平成23年度大津市一般会計予算ですが、予算の款別構成を見れば、かつてのバブル期と違って、民生費や衛生費が予算の大半を占め、逆に無駄な公共事業の大元となる土木費が激減しています。これは自治体の固有の仕事の大部分が市民の暮らし、福祉、市民の安全や健康を守ることにあることを示すもので、これは正常な方向に向かっていると言えるのは当然のことです。

さて、私たち日本共産党大津市会議員団は、今議会では、先ほども修正案の議論をさせていただきましたが、支払いたくても支払えないほど高額な国民健康保険料を1人1万円引き下げるために、財政調整基金から新たに4億円繰り入れ、大規模工場等建設助成金、工場等建設助成金1億1,700万円余りを削り、合計5億1,700万円余りを国民健康保険事業特別会計に繰り出す修正案を提案いたしました。

また、質疑の中で明らかになったように、人件費が前年比1億5,700万円余りの減、逆に物件費が9億7,600万円余りの増で、職員を100人弱減らし、その分を臨時嘱託職員に置きかえる予算になっています。現在、がんばっておられる数百人の臨時嘱託職員の皆さん方の仕事ぶりは大いに評価するものの、このような人事政策は、大津市の行政レベルに関わる問題として容認できるものではありません。よって、議案第2号に反対するものです。

議案第3号ですが、国民健康保険料の滞納問題は、依然として深刻な状況と認識せざるを得ませんし、先ほどの議論でも塚本議員から具体的な数字が示されたとおりです。

支払いたくても支払えないような高過ぎる保険料の主な原因は、これも先ほど議論がありました、国民健康保険事業特別会計における国の負担が 1980 年代の約 50%から、今日では約 25%に下がってきています。

これは全国平均ですが、大津市の新年度予算の数字で見れば、22.53%に減額されているのが大きな原因であることは言うまでもありませんし、さらに保険者の大津市は、2009 年 2 月議会の代表質問でも指摘しましたように、必要な保険料収入を収納率で割り戻して保険料を賦課していることです。これは、市が保険者としての収納義務を果たさず、徴収できない分をまじめな納入者に肩がわりさせるもので、このやり方を認めることはできません。

また、先ほども言いましたように、保険料を 1 人 1 万円引き下げるために当会計においても修正案を出しているとおりで。よって、議案第 3 号に反対をするものです。

議案第 4 号ですが、これは議案第 33 号と関連をいたしますので、一括討論をいたします。

議案第 33 号は、葬儀事業の不祥事を機に自宅葬を廃止しようとするものですし、確かにホール葬が大勢を占めている方向になっていることは否定するものではありませんが、たとえ年間の自宅葬受託件数が少なくても、市民の方々の多様な要求に応えるためにも、自宅葬がとり行える余地を保障することは公の責任ではないでしょうか。よって、この議案第 33 号及びそれ前提とした議案第 4 号に反対するものです。

議案第 11 号については、同じく議案第 52 号と関連をいたしますので、これも一括討論をいたします。

私たちは、雄琴駅周辺土地区画整理事業で、ルール外での市費を 31 億円も負担するという苦い経験を知っています。経済情勢が当時とは違うことは十分認識していますが、今日、新聞報道でありました地価公示を見れば、また地価が低下をするということが出ていました。

委員会の議論の中で、計画期間が平成 28 年度まで延期をされ、まだ 6 年先とは言え、採算上、全く心配ないという確信的な答えはありません。市は、一部の市民のために多額の税金をつぎ込むことに市民の理解が得られないというふうに言われますが、私はその言葉をそのままお返しをして、議案第 11 号、議案第 52 号に反対をするものです。

議案第 12 号ですが、これも議案第 53 号と一括して討論をするものです。

民主党が 2008 年 2 月 28 日に後期高齢者医療制度廃止法案を衆議院へ、わが党などと共同提出をしました。また、2009 年の総選挙では、この制度廃止を大きな公約の一つとして政権につきましたが、いとも簡単にその公約をほごにしようとしています。

政治的には重大な問題ですが、何よりも、これまでも議論してきましたように、75 歳以上のお年寄りに対する差別医療制度は許されるものではありません。よって、この議案に反対するものです。

議案第 26 号ですが、大津市は 2020 年、平成 32 年までは人口増の都市です。人口が増え続けることは、行政需要が増加することにつながり、正比例的とは言えませんが、職員増は避けられないのではないのでしょうか。

一方で、簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律は、それぞれの自治体の地形ですとか、そういった特殊な事情を全く無視して全国一律に人員削減を迫ってきました。

自治体が自治体として、地方自治法で定められた住民の健康や暮らし、福祉を守り、充実させるためには、必要な人材は正規職員でしっかりと遂行することが必要であることは言うまでもありません。実態に合わせるものと言われますが、国の言いなりに人減らしを容認し、加速する恐れがあるものとして、この議案に反対するものです。

議案第 30 号は、し尿くみ取り料金を値上げしようとするものですが、今議会代表質問でも、大津市民の収入は 10 年前に比べて 56 万円も低下していることを明らかにしました。この数字は、平均的な数字ですが、市民生活の大変さを示していることは言うまでもありません。

また、この値上げにより影響を受けるのは、さまざまな事情により公共下水道のサービスが受けられない約 3,500 世帯。私たちは一昨年の水道料金や下水道料金の値上げの際にも、市民生活の右肩下りの時代に公共料金の値上げは自粛すべきだという主張をいたしました。同じ公共料金という点から言えば、この値上げは、いま行うべきでないと考えます。よって、この議案に反対するものです。

次に、請願第 2 号です。議会の議論の中で、まだ大津市は一般家庭系ごみを有料化しないとか、また、そういう計画がないというような議論もありますが、(新) 行政改革プラン、これのナンバー 49 は、家庭系ごみの有料化検討の項目があり、これは前行革プランを継承したもので、この行革プランに基づいて、市長は大津市廃棄物減量等推進審議会に有料化を諮問されています。大津市の意図は、明確に家庭系ごみの有料化を意図しています。

本件については、本議場でもたびたび議論されているところであり、繰り返しません。当請願提出には 6,470 筆の署名が添えられました。提出後も署名が寄せられて、合わせて 7,000 筆を超える状況になっています。

先ほど議論がありました件、余りにも形而上学的な見解であり、容認できるものでありません。よって、この願意であります家庭系一般ごみの有料化を行わないこと、また、ごみ減量の積極的な目標を持ち、リサイクルのシステムを充実して、行政、市民の協働で取り組みを進めるという願意は、まさに妥当です。よって、委員長報告に反対し、採択を求めるものです。

次に、請願第 3 号ですが、大量破壊兵器で世界の平和を脅かす無法者というふれ込みで、イギリスやアメリカの両国がそのように決めつけ、イラクに軍事侵攻をしましたが、結局、大量破壊兵器は見つからず、国際テロ組織アルカイダと旧フセイン政権とのつながりもなかったことが判明をしています。

当時、小泉純一郎首相は、イラク戦争への支持をいち早く表明し、陸上自衛隊をイラクの復興支援に送り込みましたが、航空自衛隊が行った米兵らの輸送活動について、名古屋高裁は 2009 年、違憲判決を下しています。民主党岡田氏は、外相当時に、衆議院の外務委員会で米国のイラク攻撃を支持し、自衛隊を派遣した自公政権の一連の対応について、どこかの時点で検証したいということを表示しています。この外相の表明は大変重いものがあります。よって、この願意は妥当につき採択を求めるものです。

以上、議員諸氏の賛同をお願いいたしまして、討論といたします。